

平成25年度 鳥取県教育研究大会 兼 スクラム教育フォーラムを開催しました

県教育委員会では、全ての校種において、学力や、豊かな人間性と社会性の育成を図るため、各学校の取組への支援を進めています。本研究大会は、取組報告や研究内容等の発表を行うことを通じて、その成果や課題を共有し各学校の実践に生かしていただくために開催しました。子どもたちの「学び」や学校の授業はこれからどう変わっていくのかということについて、事例の紹介を交えた講演も行いました。

日時 平成25年12月12日(木) 午前10時から午後4時40分まで 会場 鳥取県立倉吉未来中心小ホール他 参加者数 325名

内容1 講演「『わかった!!』の先に続く学びを求めて」

講師 東京大学大学総合教育研究センター 教授 三宅なほみ氏

講演内容 「今、なぜ新しい学びが必要か」「21世紀型スキルと呼ばれる学力」など、協調学習の手法を用いた学びについてお話をいただきました。

参加者の声 ・子どもは自分の考えをもちがっているという前提で、授業をはじめとする学校での取組を見直す、協調学習的な手法は様々な場面で活用できると思います。
・まさにタイムリーな内容でした。「自ら」とか「持続型」の学びの姿は常に目指す姿です。学校の研修にも活かしていきたいと思えます。
・21世紀型スキルをどう育てていけば良いのか、そのヒントをいただいたと思います。

内容2 分科会Ⅰ～スクラム教育の取組実践報告～

スクラム教育推進事業では、県内6地区のタワーを設置し研究を進めてきました。本研究大会では、3年間の成果を発表していただきました。

未来を拓く「スクラム教育」からの発信



境港タワー
子どもの自立を支える一貫性のある教育の実現をめざして



伯耆タワー
目指す人間像を共有した小中一貫授業改革の取組



岩美タワー
みんなが成長を実感できる連携教育



日南タワー
関わり合いを通して、生き抜く力を身につける子どもの育成



倉吉タワー
英語、数学などの学力向上を目指した中高連携教育の推進



八頭タワー
「いきいきやすっこを育む」中高を中心とした連携の在り方

参加者の声

- ・各タワーの地域性や課題、その解決に向けた様々な取組がとても参考になりました。
- ・地域で子どもの成長を見ていくという観点と、それを実現するためのプログラム、システム構築などとても参考になりました。本校でも取り組んでみたいと思います。

スクラム教育に代表される校種間連携の取組を通して、子どもたちの学力向上や、小1プロブレム、中1ギャップの解消に成果を上げる地域が増えています。また、子どもたち同士の交流が実施される中で、特に年長の児童生徒の自己有用感が増し、年少の児童生徒は、近い将来への目標が明確になって、学習意欲が向上する様子も見られています。県教育委員会は、今後も各地域での校種間連携の取組を支援していきます。

内容3 分科会Ⅱ～授業改革の取組事例発表～

- 幼稚園の取組事例発表** ●境港市 聖心幼稚園
「充実した遊びを通して、自ら考える力を育む」
- 中学校区の取組事例発表**
 - ①「9年間を見通した豊かな学びの創造」 ●若桜町立若桜学園
 - ②「小中で確かな学力を育む取組」 ●倉吉市立米米中学校区
 - ③「伝え合う力を伸ばす授業づくりに向けて」 ●大山町立名和中学校区
- 特別支援学校の取組事例発表** ●県立鳥取聾学校
「確かな学力の定着を目指して～ことばやかす、国語、算数・数学科における実践～」
- 高等学校の取組事例発表** ●県立米子東高等学校
「『CAN-DOリスト』の形で学習到達目標に基づいた英語授業の改善」



鳥取県のスクラム教育は、幼保から高校までの一体感を生む取組となり、子どもの成長を長い目で見る体制ができつつあります。「続けること」「広げること」「成果を見極めること」を大切に、今後も取組を進めてほしいです。
(文部科学省 澤井調査官講評より)



授業改革についての発表

参加者の声

- ・発表を聞いて元気が出ました。夢を失わず、教師が本気の力を出して授業改革に取り組みなくてはと思いました。
- ・全ての取組が「子どもを主体者」とするものであることが良く分かりました。自分の授業改革も含め、子どもがより主体者となるような授業づくりをしていく必要性を感じました。

問合せ先 県教委小中学校課 電話 0857(26)7512

県教委高校教育企画室 電話 0857(26)7517



幼児教育充実活性化事業



鳥取県教育委員会では、昨年度、「鳥取県幼児教育振興プログラム(改訂版)～遊びきる子ども～」を策定しました。本年度は、円滑な接続をめざして、就学前の幼児教育・保育と小学校1年生の教育内容や学びのつながりをまとめた「幼保小連携カリキュラム」を開発しており、今後、さらに相互理解と幼児教育・保育・小学校教育の充実を図る取組を推進していくこととしています。ここでは、小学校教員が幼稚園・保育所・認定こども園で1年間研修をする「長期社会体験研修」の様子や研修者の声を紹介いたします。



保小交流で...

小学校教員の幼稚園・保育所における長期社会体験研修

★平成19年度から実施 ★本年度までに計32名が研修

小学校と保育園の交流を重ねるごとに、5年生には、上級生としての意識が芽生えました。また、年長児には、入学を楽しみにする気持ちが膨らみました。保小の交流は、双方によさがあるということを実感しました。

江府町立子供の国保育園・江府町立江府小学校

発達や学びの連続性がわかり、幼保小で育てたい力の共通理解を図ることの重要性を感じました。保育者同士の連携や遊びきる子どもを育てる環境構成、保育者の援助について学んだことを小学校でも生かしていきたいです。

琴浦町立やばせこども園・琴浦町立八橋小学校



日々の保育で...



研修者からの
おたより



保育園の教職員へ



保育・小学校教育の相互理解のきっかけになるように、小学校や保育園の教職員には、それぞれの取組や子どもの姿、保育園の保護者には、小学校の取組を紹介するおたよりを発行しています。これを通して、子どもの実態や指導内容・指導方法を知る等、互いがより身近に感じられるようになってきました。

鳥取市立すくすく保育園・鳥取市立青谷小学校

問合せ先 県教委小中学校課 電話 0857(26)7915

タブレット端末を活用した学習支援

鳥取県教育委員会では、県内の特別支援学校にタブレット端末等のICT(情報通信技術)機器を整備して、子どもたち一人一人の能力を最大限に発揮できる学習指導の充実や、学びの意欲を引き出す支援の充実に努めています。一人一人の障がいや能力に応じてICTを活用した教材作りや、アプリケーションソフトの有効活用を推進し、自立と社会参加の促進を目指して、各学校で積極的に取り組んでいます。



鳥取養護学校

音読が苦手な生徒が、ひらがなの読みを繰り返し練習することができるアプリケーションを活用した学習を通して、正しく発音することのできるひらがなが増え、自信を持って自分の思いを伝えることができるようになってきています。



鳥取盲学校

弱視の生徒がタブレット端末の拡大表示機能を活用して版画の製作などを行っています。手元が見やすくなったことで、楽な姿勢で意欲的に授業に取り組むことができるようになりました。



倉吉養護学校

発語が苦手な生徒が、音声コミュニケーションツールを活用することで、周囲とのコミュニケーションの幅が広がり、朝の会の司会などにも積極的に取り組むようになってきています。

問合せ先 県教委特別支援教育課 電話 0857(26)7575
県教委教育環境課 電話 0857(26)7698